



第1152号  
2010年2月7日発行  
日本聖公会東京教区  
港区芝公園3-6-18  
編集人 英 久子

WEB: <http://www.nskk.org/tokyo/index.htm> E-MAIL: [comm.tko@nskkg.org](mailto:comm.tko@nskkg.org)  
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇2月の代禱・信施奉献先  
▽「信教の自由」を抑圧されて  
いる人々のため(2・11に近い  
主日)▽ハンセン病問題啓発  
の日(大齋節前主日の1週  
前)▽東京教区神学生のため  
(大齋節第1主日)▽聖公会生  
野センターため(3・1に近い  
主日)▽ぶどうのいえのため  
▽平和を実現するキリスト者  
ネットの働きのため▽聖公会  
平和ネットワークのため

◆教役者レクイエム  
2月10日(水)10時半

説教 関 正勝司祭  
主教座聖堂

▽司祭皆川晃雄▽司祭岡崎清  
蔵▽主教村尾昇一▽司祭栗飯  
原信▽司祭遠藤義光▽司祭高

今週・来週の予定

2月7日~20日

- 7(日) 顕現後第5主日
- 9(火) 銀座朝拝会  
人権委員会(聖バルナバ)
- 10(水) 教役者レクイエム  
多摩G牧師協議会  
教区幼保懇談会
- 11(木) 日本聖公会組織成立記念日
- 12(金) 広報委員会
- 13(土) 人権:日の丸・君が代「祈  
りの会」(聖バルナバ)
- 14(日) 大齋節前主日
- 15(月) 常置委員会  
ハラスメント防止委員会
- 16(火) 月島・準備室  
聖職養成委員会
- 17(水) 大齋始日  
下町G大齋始日礼拝  
下町G牧師協議会
- 18(木) 城南G牧師協議会
- 19(金) 礼拝音楽委員会
- 20(土) 「主教職について学ぶ」  
第110(臨時)教区会

松孝治▽執事戸所芳一▽執事  
栗原素行▽執事金井登▽伝道  
師多治見十郎▽伝道師深尾猪  
曾子▽主教小笠原重二▽司祭  
山口千尋▽司祭澤邦介▽司祭  
桑田繁吉▽司祭大和田功  
◇中部教区主教按手式・就任式  
11日(木・休)、同教区司祭洪澤  
一郎師の主教按手式ならびに  
就任式が行われ、東京から常  
置委員長・大畑喜道司祭が参  
列する。  
▽2月ランチタイム・オルガ  
ンコンサート \*聖パウロ12  
日(金)、野田美香 \*神田キリ  
スト17日(水)、和田純子。い  
ずれも12時20分から30分程度、  
入場無料。\*聖アモテは休演。

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

「聖公会は異端です。あなたは改宗してカ  
トリックに戻りなさい」

50年程前、今思えば第二バチカン公会  
議が開かれたころ、私は父の転勤先の北  
九州小倉に居て、小中高一貫  
のカトリックの学校に通う中  
学生でした。学校では週1回  
「公教要理」の授業がありま  
した。中3のある授業の中で  
ロザリオについて「なぜ主の  
祈りより「めでたし」をこんな  
に多く唱えるのですか」と質  
問した私へのメール(マザ  
ー)のお答えが冒頭の言葉で  
した。15歳の私には、聖公会  
とカトリックの違いも何が異  
端なのかも知りませんでした。祖父母の  
代から聖公会の家庭で平和に、のほほん  
と過ごしていた私にとって、このことは

《み手のなかで》

メールと公教要理

衝撃でありその後の進路を決定づけまし  
た。聖公会の学校に行きたいという私の  
願いを神様は聞き入れて下さり、私はひ  
とり帰京して立教女学院に入り、大学で  
はキリスト教学科に進む幸いを得  
ました。どこか気まずい別れだっ  
たにも拘らず、メールが上京の折  
には、大学での私の学びについて  
にこにこ聴いて下さいました。  
そのメールも今はなく、時の流れ  
を感じます。

今、主日の聖餐式の中で全公会の  
為に祈り、カトリックとの共同訳の  
主の祈りを捧げる時、ふとあの「公  
教要理」の授業が甦ります。この  
60余年神様は昔も今も私と共にいて  
下さり、深い憐れみをもってこの拙い土の  
器の私をみ守り導いて下さることに唯々感  
謝です。  
(八王子復活教会信徒)

1月30日聖アンデレ主教聖聖堂で司祭按手式が廣田勝一管理主教司式、竹内謙太郎司祭説教により執行され、教区内外の参列者の臨証と、教区合同聖歌隊奉唱のもと一人の司祭が誕生した。

#### ◇司祭職に叙任されて

司祭 卓 志雄(タクジウン)

人々は司祭を評価する時、積極的だ、人が良い、バランスがとれている、説教が感動的、勉強家だ、などと言う。しかし「あの先生は常に祈る司祭だ」という話あまり聞いたことがない。司祭における「祈り」というのは、神様は私にとって絶対必要な存在であり、我が救い、我が命、我が愛、我が全てであることを知性で理解し、口で宣べ伝え、心で信じることの始まりである。また司祭の真

の働きを可能にする原動力である。司祭における権威は人間的な部分から成るものではなく、神様との対話である「祈り」から自然に成るものではないか。主に従い、全ての人の全てになり、自分を徹底的に捧げる生は、弱い人間の限界を超える要求であり人間の力ではできない。そのため「祈り」によらなければ神様の働きに参与することも、真の司祭の働きもできないのではないか。「祈り」によらない教会はただ牧会の真似にすぎないのではないか。これからは「祈る司祭」として弱い人間でありながらもキリストにあやかりたい。絶えず祈りながらパウロの言葉を常に心に留めたい。「わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能で

す(フィリピ4・13)。

…先日行われた聖職按手式にお越しいただき、またお祈りをもってお支えくださいましたこと、本当にありがとうございます。

(練馬聖ガブリエル教会副牧師)

#### 正義と平和協議会

運営委員会報告 (1月22日)

\*委員は5名で、さらに2名選出予定。

\*ブレ宣教協議会(8月)の宣教主事報告と情報交換。

\*管区正義と平和委員会が韓国訪問を検討中など議長報告。

\*聖公会「正義と平和」声明決議集を順次発行する。

\*協議会団体会員の各活動に対する支援、給食活動への注目。

\*「正義と平和協議会便り」発行。

#### 「クローズアップ」 38

#### 正義と平和協議会シンポジウム

12月5日(土)13時より正義と平和協議会主催のシンポジウム「命をつなぐ働きをめざして」私たちはなぜ野宿者支援活動に入ったのか」が浅草聖ヨハネ教会で開催された。副題にあるとおり笹島、釜ヶ崎、東京と各地で野宿者・生活困窮者の支援をしている日本聖公会の関係者3名が発題者となった。

発題者から「野宿者・ホームレス」ではなく「失業者」であるとの指摘がなされた。必要となるのは自立していくための援助であり給食活動や夜回りをすることは手段であって目的ではないことが強調されていた。

行政によって、居所を封鎖された現場や酔った会社員に寝込みを襲われて命を落とした状況など野宿せざるを得ない人々の生活の実際が写真とともに紹介され、思いが分かち合われた。

浅草聖ヨハネ教会の日曜給食については「教会の外に出ていない活動。普通の教会が教会の働きとしてやっていること」と報告された。

また、笹島のある中部教区では野宿者支援の中心を担うNP O事務局が教区事務局に置かれ、市内の教会が他教派や市民団体と共に協働している姿も紹介された。

発言の中で興味深かったのは「現在の教会はその働きが単純になっていないか」と

いう問いかけであった。宣教の当初、病院・学校を始め社会的な働きの中核を教会が担っていたのに対し、現在は「内輪だけの平和を求めているように見える」との意見があった。

一方で、このような「社会的な働き」を教会がするべきではないとの声に対して「命に関する問題に教会は関心を持たないのだろうか」との問いを逆に受けた。

これらの問いに対して、どの様に応答していくのかは今後のそれぞれの教会が課題にしていることなのだと思う。

それぞれに熱い思いが語られ予定の時間を越えて終了した。

正義と平和協議会 前議長

司祭 須賀義和